



日口交流

発行: 特定非営利活動法人日口交流協会

E-mail: nichiro@nichiro.org

Home Page: <http://www.nichiro.org>

〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-14

麻布台マンション401号

Tel: 03 (5563) 0626 Fax: 03 (5563) 0752



大使館友禅教室の再開

笠原 以津子

コロナの影響で、3月からお休みだった大使館教室が9月23日から再開されました。私はカルチャーセンターなど数箇所でお教室をしておりますが、大使館でロシアの方にお教えするのはとても大切にしておりますので再開は大変嬉しかったです。半年のブランクを全く感じさせない皆様の筆の動きに感動し、更に嬉しくなりました。季節に合った菊を描いて頂きましたが、今回は桜が描きたいと仰いました。「この時期に桜を・・・」日本人は描くものも割と季節に拘りを持ちますがロシアの方は今描きたい物を描く。日露の違いを感じます。

大使館教室再開と同じ頃、『ハバロフスク日本センターの北村さんから「ロシアと日本のコラボ制作の企画があり、作家を探してる」というお話がありました。如何ですか?』と千葉さんが声をかけてくださいました。ハバロフスクの伝統と日本の伝統をコラボ、とても面白そうと二つ返事をいたしました。コロナの影響で、日程的なズレがあるようですが、商品化に向けて展示会に出すそうです。日本らしい柄・・・色々と考えました。浮世絵・歌舞伎・相撲・江戸玩具・・・。その中で、伝統色をおおいに出せる伝統柄を提案しようと思います。

ロシア関係の仕事をしていると、ロシアのことを知ると同時に、改めて日本の事を知ることができます。長年友禅をし花を中心に柄を描いてきましたが、頭の中で少し着物に多く描かれる花についてまとめてみました。着物に描かれる花で圧倒的に多いのは菊と梅。続いて牡丹・桜・松・紅葉・藤・菖蒲の順でしょうか。萩、薄、女郎花なども立派な脇役を務

めてくれます。桜では、しだれ桜が圧倒的に多いのですが、これも友禅が京都発祥だからかもしれません。また、振袖や訪問着では四季の花を取り入れることがほとんどですが、茶道をされている方からは、その季節限定の柄の注文が圧倒的に多いのです。紅葉だけを着物全面に描いた時は、布巾や手が染料で紅葉(こうよう)の日々が続きました。

大使館教室では、よく素朴な質問をされます。毎年暮れには「お正月柄」を描いて頂いてますが、門松、鏡餅など、意味や由来を聞かれます。そして、鏡餅とお雑煮のお餅、お月見のお団子は違うのか、など。日本人には当たり前で、疑問も持たずにいるものでも、外国の方にとって不思議なものなのでしょう。

日本人が日本の事を知っているかというところでもなく、私などは知らない事が多く、勉強させていただいてます。当たり前に見ている日本の物を学ばなくてはいけないと感じます。千葉さんが日本文化に卓越してらっしゃるので、通訳だけでなく、とても支えられて助けて頂いてます。

私は友禅で依頼を受けると、まず、依頼を受けた柄(花・小物etc)について徹底的に調べます。「よくわからない」では自信を持って描けないのです。今注文を受けているのは南天柄の帯。南天も友禅の柄にたまに登場し、何度か描きましたが、久々なので調べました。

『日本では南天は鎮咳の生薬として、又「難転(難を転じて福となす)」に通じることから、縁起木として親しまれてきました。戦国時代には、武士の鎧櫃(よろいびつ、鎧を入れておくふた付きの箱)に南天の葉を収め、出陣の折には枝を床にさし、勝利を祈りました。江戸時代には、「火災除け」「魔除け」として、多くの家の庭に植えられていたとか。こうした習俗は今も日本の各地に残っており、南天は家の鬼門の方角に植えられることが多いようです。』だそうです。なるほど! Google先生ありがとうございます。

お守りを描ける私は幸せですね。心を込めてお描きいたします。大使館の方にも12月に描いて頂こうと思います。

皆様にも、少し早いですが、よいお正月をお過ごしになれますよう心よりお祈りいたします。(理事)

お知らせ

●第72回マトリョーシカ絵付け教室

日時: 2020年11月29日(日) 13:30~16:00

場所: 田町リーブラ2階、学習室C

会費: 3,000円(好きな教材1セット含む)

講師: 菅野エレナ

●オクサーナ先生と歩くアクーニンゆかりの横浜

日時: 2020年11月8日(日) 13:00~15:00

集合: 桜木町駅東口13:00

会費: 1,000円

*歩きやすいくつでお越しください。

*少人数で実施いたしますので、必ず前もって事務所までお申し込みください。定員になり次第締め切ります。

●テーマ別ロシア語「おもてなしロシア語」5

日時: 2020年11月1日、15日、12月6日(日) 13:30~16:00

場所: 田町リーブラ、多目的室1

講師: オクサーナ・ピスクノワ

授業料: 会員7,000円 一般8,000円

連絡先: 日口交流協会事務局 E-Mail: nichiro@nichiro.org

Tel: 03-5563-0626 Fax: 03-5563-0752

お願い

NPO 日口交流協会では、ロシアでの日本の伝統文化などの紹介、国内でのロシア関連の学習会、ロシア人とのイベント交流など幅広い活動を続けています。これらの活動を一層推進させるために皆様からのご寄付をお願い申し上げます。一口千円からいくらでも結構です。

振込先: 郵便口座 00160-9-66486、加入者: 日口交流協会
連絡先: 日口交流協会事務局 E-Mail: nichiro@nichiro.org

Tel: 03-5563-0626 Fax: 03-5563-0752

ちょっと危険な暖の取り方

島田 顕

モスクワ市内の給湯、ガス、暖房、水道の料金は一定である。つまり決まった料金さえ払ってれば、たくさん使っても文句を言われることはない。特に給湯と暖房は、水道やガスと同じく各家庭に送られている町ぐるみのセントラル・ヒーティングである。

1996年の11月にモスクワに到着した最初の日の夜のこと。モスクワ市の北のはずれにあるシェレメチエヴォ空港から都心を経て宿舎がある南部へとタクシーで駆け抜ける時、ある巨大な煙突からもくもくと煙が立ち上っていた。ゴミ焼却施設か何かの煙だと思い、市内の粉塵はひどいのだろうなあと思直感した。だけどそれは間違っていた。煙突だと思っていたのはお湯を沸かすボイラーで、煙だと思っていたのはお湯を沸かしたときに発生した水蒸気だったのだ。そのお湯を使って各家庭ではお風呂につかり、シャワーを浴び、顔を洗うことができる。またそのお湯をヒーターの中に循環させて暖を取ることができる。暖房のおかげで、モスクワの冬は外気はマイナス15度から20度なのに、室内はプラス20度くらいに保たれているので暖かく快適である。

だが一冬に一回は冬将軍がやってくる。マイナス30度くらいの寒波のことである。モスクワの冬は大体どんよりとした曇りか雪なのに、気温がマイナス30度に下がるときに限って快晴となる。放射冷却現象のためだ。放送局に入って初めての冬間もない頃、快晴の日に出外してしまったことがあった。自室にテレビがなかったこともあり、寒波が襲来してい

ることを知らなかったのである。曇りか雪の日が続いていたから、晴天になると外へ出かけたくなる。自然にあふれているところと思って、一人でモスクワ市内北部の植物園の中にある日本庭園を目指した。地下鉄の最寄駅から園内の門をくぐったら広大な敷地が目の前に広がった。ロシア人たちは歩くスキーで遊んでいた。歩いていたら、あまりにも寒くて、腕は手首から先、足はひざから下の感覚がなくなり、慌てて引き返すことになった。

そんな寒波が襲来した日はアパートの中も20度を切り寒くなる。こういうときはどうするか。ちょっと前までは毛皮のコートを着て寝るのだということを聞いたことがある。お金がある人はデロンギなどの電気ヒーターを持っている。だが私は満足な給料を貰っていなかったで、そんなものを買える余裕はなかった。だから凍えるしかなかった。それでも暖房は一応生きていたので室内の気温がマイナスになることはなかった。

ちょっと危ない部屋を暖める方法をあの人から教わった。それはガスレンジの火をつけっぱなしにするのである。宿舎の自室の台所には大きなガス・オーブン付きの2段のガスレンジがある。だがつけっぱなしにすれば、ガス中毒にもなりかねない。一度ガスレンジに水を入れたやかんをかけて火をつけっぱなしにしてうとうと寝てしまったことがあった。あと一歩のところまで空焚きになるところだった。肝を冷やした。

ウズベキスタン便り

寺尾 千之

11月29日は、NORIKO学級の創立記念日です。21年前に、大崎重勝さん・紀子さんご夫妻から始まったリシタン交流、もし、ご夫妻がリシタンにNORIKO学級を創らなかったら…、深まりゆく秋とともに、そのような思いが心を巡ります。

旧ソ連から独立後、ウズベキスタンでは、毎年、首都タシケントで「日本語弁論大会」が開かれるようになりました。タシケント国立東洋大学、経済大学、世界言語大学、世界経済外交大学、サマルカンド外国語大学などの日本語学科学生が参加するレベルの高い大会です。22人が参加した2001年の第9回大会に大崎さんに引率されたNORIKO学級の小学5年生～中学3年生の4名が、初参加しました。中学1年生がスピーチした「水」が特別賞を受賞したのですが、会場にいた日本語教育関係者全員の度肝を抜いたのは、「こんなに小さな子たちが日本語を話すのか!」ということでした。すぐにウズベク全土にNORIKO学級の評判がとどろき渡り、翌年からは小中学生の部が立ち上げられ、多くの小中学校でも日本語熱が盛んになりました。当時、大崎さんはNORIKO学級について「何しろ子ども達がいる。真心で受け入れる。それに民間運営だったから、2年半という早さでここまでやれた」と語っていました。

その大会に参加した生徒の一人に、当時中学3年生だったナジロフ・ドニョル君がいます。彼は、



その後、フェルガナ大学で英語を学び、卒業後、筑波大学大学院に進学、その後、日本企業に正社員として勤務、日・露・英語を駆使して世界各地を飛び回る営業マンとして活躍しています。

彼の父親、バフチョールさんは、約1000年の歴史を持つと言われるリシタン陶器の継承者の一人で、豪放磊落な作風として知られています。リシタンをフィールドワークに研究を続ける菊田悠氏(北海学園大学准教授)の著書「ウズベキスタン陶芸紀行」によりますと、リシタンは、古くから「陶芸の里」として名高く、現在でも数千人が陶業に関連した仕事で生計をたてているとのこと。多くの子ども達は、小さいときから陶工親方に弟子入りし、土をこねたり器体に絵を描いたり、陶器作りに慣れ親しんで育ちます。ドニョル君もその一人でした。NORIKO学級との出会いがなかったら、彼も陶芸家になっていたのかもしれない。2015年からは毎年のように5月の連休に、父親のバフチョールさんを益子陶器市

に招き、親子でリシタン陶器を紹介販売しています。多くの日本人が初めて見る陶器の青の美しさに魅了されているのを見るにつれ、NORIKO学級の日本窓口の事務局に「リシタン・ジャパンセンター」と命名した大崎さんは、リシタンの未来まで見通していたのかもしれないと思います。ご存命でしたら益子陶器市に真っ先に駆けつけていたことでしょう。(リシタン・ジャパンセンター事務局長)

《モスクワ・アラカルト61》

モスクワはクラウンの涙を信じない

日向寺 康雄

ロシアでの仕事は私に、思いもかけない多くの楽しい贈物をしてくれたが、女性クラウンデュオ、ロネ&ジョージとの出会いも、忘れられない宝物の一つである。



ソ連邦最後の年1991年9月末、あの8月のクーデター騒ぎの興奮冷めやらぬモスクワに、二人は国際クラウン・フェスティバル参加のため降り立った。ついひと月前には、街の通りを戦車や装甲車が我が物顔で通り、我が放送局の中庭にも戦車が常駐、自動小銃を持った兵士に監視されながら国家非常事態委員会の声明を読まされた、あの異常な夏がやっと過ぎたばかりの頃だ。そんなモスクワに、周囲の心配や不安を振り切ってやってきた彼らのクラウン魂には頭が下がる。二人はまだひどく若くて何も知らなかったのだけれど… またそんな時期であるにもかかわらずフェスティバルを発想し、それができたソ連という体制も、今思うと実に不思議だった。街は平静で治安は保たれていた。今だったら略奪や放火など街の緊張は続き、ああした採算の合わない催しは確実に中止となっていただろう。舞台には日本以外に、アメリカや欧州、ウクライナやキルギスなどからクラウン達が登場、詰めかけた多くの子供や大人達を喜ばせた。

このお祭りは、稀代の道化師で、動物に芸を仕込む際、絶

対に罰を加えない独自の訓練法を考案し専用劇場まで作った調教師ドゥーロフの娘さんが主催したものだが、国から予算もそれなりに出ていたし、街のお菓子屋の棚がほぼ空っぽだった中で、劇場のビュッフェにはおいしそうなケーキが並んでいた。私とロネ&ジョージとの出会いのきっかけは、実行委員会から放送局にかかってきた「日本のクローネッサが泣いている」というSOS電話だった。二人は、アメリカ的ショービジネスの経験と知識はあっても、ソ連式の「おもてなし」や「段取り」には仰天し当惑するしかなかった。当時まだ通訳のレベルも低く、二人は仕事を円滑に進める「袖の下の流儀」も知らなかった。しかしモスクワの子供達が彼らを大歓迎したことで、二人の顔に笑顔が戻り、プロとしての気概が蘇った。その後精力的にサーカスを見学、今や伝説となった道化師ニクーリンと会うなどモスクワっ子とも積極的に交流… あの時の涙と笑いの貴重な経験が、二人をアーティストとして成長させ、心に素晴らしい種をまいたのだ。

時のたつのは速いもの、あれから約30年、新型コロナウイルス感染拡大という大試練の今年、ロネ&ジョージはデュオ結成30周年を迎え、9月にはトークショーを開催、そこには私も参加し昔話をさせてもらい、二人はチャーホフの作品に挑戦した。10月24日には記念のライブ公演(表参道ラパン・エ・アロ15時)もある。モスクワでまかれた種が芽を出し厳しい寒さの中でたくましく又したたかに生き抜き、小さくとも魅力あふれる花を咲かせ周囲に温かい笑いを振りまき、多くの人の心を癒している姿を見るのは、正直本当に励まされる。

(元モスクワ放送チーフアナ、現在中大・早大非常勤講師)

新学期開始と新型コロナウイルス

西山 美久

ロシアでは新学期が9月1日から始まる。新型コロナウイルスの新規感染者が減ってきたとはいえ、クラスター防止のため新学期開始時期が遅れる可能性が指摘されていた。そうした中、連邦科学高等教育省は9月1日からの新学期開始を基本としつつ、各地域の感染状況に応じてその時期を遅らせることができると発表した。

同省の決定を受け、モスクワ大学は8月20日に学長令を公表し、新学期を9月1日から開始すると発表した。もっとも、感染者が未だに確認されている状況に鑑み、構内ではマスクと手袋の着用が義務付けられた他、検温も定期的に行われるとされた。また、感染リスクのある65歳以上の教員や慢性疾患のある職員の立ち入りも禁止された。他大学も独自の対応を取っている。例えば、ウラジオストクにある極東連邦大学は地元の感染状況に鑑み新学期を9月14日から開始すると発表し、東シベリアのチタ市にあるザバイカル国立大学では感染者増加のため9月4日から12日までを休校とした。各種報道によると、いずれの大学でもマスクの着用が義務付けられており、最低限の感染対策が施されている。

さて、モスクワ大学では9月1日に予定どおり新学期が始まり、構内には新入生を歓迎する横断幕も掲げられた。スターリン様式の建築物として有名な本館の近くでは、ボランティアの学生が検温



と消毒用のハンドジェルで感染対策を行った上で、さらにマスクと手袋の着用を学生等に求めた。モスクワ大学には多くの外国人留学生が在籍しているが、今年はコロナの影響で状況が一変した。9月2日時点でイギリス、トルコ、タンザニアといった一部の国を除き国境が閉鎖されているため、大半の留学生はロシアに入国できずオンラインで授業を受けることになった。国境が解放された国の留学生から受入れを始めるそうだが、その時期は未定である。なお、各種報道によると、11月から日露間で定期便が再開されるようであり、ロシア留学を心待ちにしていた日本人学生にとっては朗報だろう。

多くの大学で新学期が始まったが、9月中旬からロシアの新規感染者が増加している。特にモスクワ市の増加は著しく、一部大学は対面式の授業を維持しつつ、クラスター防止のために構内に立ち入りできる学生数を制限し、オンライン授業を導入した。モスクワ大学でも同様の措置が取られており、構内を歩く学生や教師は疎らである。

10月に入っても感染者は増加し続ける一方で、5月のピーク時の水準を上回り第二波が拡大している。今のところ厳しい制限措置は導入されていないが、教育機関も含め今後の対応が気になるところである。(北海道大学)



安井亮平先生を偲ぶ

畔上 明

早稲田大学文学部露文科でロシア語、ロシア思想を教えてこられた安井亮平名誉教授が、10月3日84歳で永眠されました。

30代半ば「ロシアではキルギス人に見られるのです」と言われた、確かに中央アジアの惚れ惚れする様な騎馬民族に見えるかもしれない最初の出会いの日以来、半世紀に亘ってあらゆる場面に於いて変わらぬ面倒見の良さでお世話下さった、掛替えのない敬愛すべき先生でした。

中学、高校時代よりロシア文学に夢中になっていた私は、高校一年の時購入した平凡社版ロシア・ソビエト文学全集中の「ロシア詩集」によりチュッチェフという詩人を知り、その31編の詩が安井亮平訳となっていることで、大学に入ったらこの先生の教えを受けたいと思ったものでした。

早稲田に入学し安井先生にパウストフスキーを講読して頂いたとき、ロシア語のそのリズム、イントネーション、響きの美しさを知ることとなり、私たちの拙い音読を徹底的に繰返し直された時には先生のロシア語に対する深い愛を感じ、また洞察力の欠如やロシアに対する一面的な見方に対しては強く批判されるのでした。厳しかった授業を離れた時には、そこはかとないユーモアがにじみ出て、ロシアについて学ぶからにはロシアへ是非とも行くべきであることを熱心に語り、旅費を如何に稼いでいくべきかといったことまで話して下さいました。

安井先生が早稲田大学で学ばれた頃は、露文科には直木賞作家となる五木寛之氏、さらに後藤明生氏、森内俊雄氏といった味わい深い作家、芥川賞を受賞する宮原昭夫氏、李恢成氏、三木卓氏、また中里介山の甥で33歳で猟銃自殺を遂げたロシア文学者中里迪弥氏、漫画家東海林さだお氏、そし

て、同級の親友として、筑摩書房で中野重治全集を編集しモスクワのプログレス出版社で翻訳活動に励まれ晩年「チェーホフ全集」を翻訳し今年8月17日に亡くなられた松下裕氏、「ロシア語のイメージ・連想・シンボル・比喩」という労作をものにされた狩野昊子さん、開高健「夏の闇」のモデルとなった佐々木千世子さん、或いは甘粕正彦の娘でありロシアの幼児教育の本などを翻訳された物静かな甘粕和子さんといった同級生の思い出を語って頂いたものでした。ジャーナリストの筑紫哲也氏も他学部ではありましたが早稲田の同期ということであり、その時代が眩しく映ります。

先生のお話に圧倒され1972年大学3年の時に私は初めてソ連へ1ヶ月旅行するに至ったのですが、客船ハバロフスク号で旅立つ横浜港へは安井先生が数人の教え子共々見送りに来て下さったのでした。

その旅立ち、私が仕事でロシアとの関わりを持つきっかけとなり、その後先生ご夫妻がロシアへ行かれるときに旅の手配をさせて頂くことで、最期までお付き合い頂く幸運に恵まれたのでした。

安井先生には三つの柱があり、その一つは早稲田で教鞭を執っていたワルワラ・ブブノワ(1886-1983)さんの最後の教え子として1958年ソ連帰国後も絆を強めていかれたこと、全集ロシア語文献に携わった二葉亭四迷研究、そして多くのロシアの友人、特に農民派作家ペロフさんとの深い交流を持たれたことでした。

先生のロシアの友人たちは言います「安井先生ほど誰よりもロシアのこころを深く理解している方はいない」と。

(「プロコ・エアサービス」シニア・アドバイザー)

モスクワ「ムゼイ」巡り・その23

メリニコフの家 Музей Мельниковых

大矢 温

コンスタンチン・メリニコフという建築家をご存じだろうか。赤の広場のレーニン廟を設計するなど、ソ連を代表する建築家である。当然、ソ連では特権階級だった。特権階級なので通常は一戸建てが許されないモスクワで庭付き一戸建ての「家」を建てるのができた。それもモスクワの超一等地、旧アルバート街に近いクリヴォアルバート横丁にである。



1929年に完成したこの「メリニコフの家」、革命直後の構成主義を代表する建築となった。構成主義とは、鉄やガラスといった素材を円や四角形など幾何学図形を主題にして組み立てようという造形芸術運動。実際この「メリニコフの家」、2本の円柱を「8」の字に組み合わせで構成され、内部はらせん階段を中心にしたステップフロアになっている。さらに六角形の窓がこの家の外観を特徴づけている。

さてこの「メリニコフの家」、さすがに1970年代に入ると痛みが目立つようになった。1974年のメリニコフの死後、この家を相続した息子のヴィクトルがこの家を博物館にしようとするが、なんとといっても彼ら一家が住んでいる建物なの

で、その計画は実現しなかった。その後も家の所有権をはじめとしたごたごたで博物館化が遅れたが、21世紀に入ってユネスコの「消滅の危険がある世界文明遺産リスト100」に登録されるなど、保存に向けた機運が盛り上がり、2014年に公式に博物館となった。現在、内部の見学にはエクスカッションを申し込む必要があるが、庭は無料だし門が開いていれば自由に入ることができる。庭はちょっとした屋外博物館になっていて、この

「家」にまつわる展示物を楽しむことができる。庭の片隅にたつ小屋ではメリニコフに関するお土産も売っている。旧アルバート街の雑踏を離れて一息入れるのには絶好の穴場なので、旧アルバート街観光の折にはぜひ訪れていただきたい。

(札幌大学地域協創学群教授)

休館日は不定期。午後は庭の門が開いている。

最寄駅は地下鉄アルバート

Москва, Кривоарбатский
переулок, 10.

エクスカッションの申し
込みは右のQRコードから

